

# 突発性難聴のご紹介

耳鼻咽喉科部長 河野敏朗 (かわの としろう)

略歴 専門：難聴、副鼻腔炎、アレルギー疾患

資格：日本耳鼻咽喉科学会認定指導医専門医、日本アレルギー学会認定専門医、日本気管食道科学会認定専門医、日本医師会認定産業医 医学博士 横浜市大客員準教授



## 突発性難聴について

### Q1: 突発性難聴はどんな病気ですか

今まで耳の病気のなかった人が 明らかな原因もなく、ある時突然に通常片方の耳が聞こえなくなる病気です（たとえば「朝起きたら突然聞こえない」「テレビをみていたら突然聞こえなくなった」など。2001年の調査では、おおよそ全国で年間3万5000人（人口100万人に対して275人）の患者数でした。年齢別では一般的には50～60歳代に多く、男女差はみられません。また、小児での発症の報告もみられます。

最近では病気の認知度の上昇につれて患者数も明らかに増える傾向です。一度かかった人は再発することはまずありませんが、少なからず再発したりすることもあります。原因としては、内耳のウイルス感染や循環障害などとも言われていますが、まだ明らかな原因は解明されていないのが現状です。睡眠不足や過労、心身のストレスなども関係があるといわれています。現時点では、遺伝はしないと考えられています。初めに突発性難聴と診断されてもその後、原因が判明すれば診断名が変更になることもあります。

### Q2: 診断にはどんな検査が必要ですか？

問診や視診、純音聴力検査などが重要です。今までにどんな病気にかかっているか、いつから症状が出現しているか、眩暈、耳鳴、嘔吐などの随伴症状を伴っているかなどを問診する必要があります。さらに耳鏡検査にて外耳道や鼓膜所見で耳垢栓塞や中耳炎などの異常がないか、あるいは聴器X-Pなどで確認することも大切です。次に、純音聴力検査では伝音性難聴か感音性難聴か、混合性難聴かなど難聴のタイプを同定することも大切です。脳卒中や聴神経腫瘍、前庭水管拡大症などの疾患を鑑別するためにはMR、CTなども必要です。心因性難聴や詐聴などの機能性難聴との鑑別には聴性脳幹反応（ABR）や耳音響放射（OAE）などが有用です。

### Q3: どんな症状がありますか？

自分の声が響く、耳がこもった感じがする、聞こえにくい、周囲の音が響いたり、かん高く聞こえたりします。難聴が以前から徐々に進行してきたという症状は突発性難聴ではなく、何の前触れもなく突然に難聴の症状を自覚するものをいいます。一側の耳の難聴の他には、多くの場合ピーとかジーとかなどの耳鳴や耳に水が入った時のような耳閉感を伴います。さらには人によっては激しい眩暈を伴うこともあります。

眩暈が強くなった場合には、嘔気、嘔吐などが出ることもあります。眩暈を伴う場合には一般的には治りにくいともいわれています。

### Q4: 突発性難聴と似た病気にはどんなものがありますか？

低音障害型の感音性難聴をくり返す場合や眩暈発作をくり返す場合はメニエール病が疑われます。両側性に突然難聴が進行する場合は両側性特発性感音難聴が疑われます。飛行機の搭乗、頭部打撲、くしゃみ、鼻をかむ、登山などをきっかけにした難聴は外リンパ瘻を考慮する必要がありますコンサート会場や爆発・爆風などの事故での大音響が原因の場合は騒音性難聴が考えられます。特に未成年では心因性難聴もしっかりと除外しなければなりません。

### Q5: 治療法はどんなものがありますか？

**一番大切なことは何よりも発症してから早期に治療を開始することです。**発症後早ければ早い治療ほど治療成績も良好です。この時期を逃してしまうと後から治療を開始しても効果があまりみられません。安静も必要であり精神的にも肉体的にも疲労をとることが重要です。

軽症の難聴の場合は外来で主にステロイド剤などの内服治療を行います。中等症から重症例では入院治療が必要です。入院治療の場合には主にステロイド剤、ビタミン製剤、ATP製剤、低分子デキストランなどの点滴を行います。点滴のほか代表的なものには星状神経節ブロック注射や高気圧酸素治療などがあります。最近では、鼓室内ステロイド治療も行われるようになっております。当科でも主にステロイド剤点滴や高気圧酸素治療に加え、ご本人同意のもと鼓室内ステロイド治療を施行し、治療成績も良好です。

当科での治療成績は耳鼻咽喉科学会のなかでも権威のある日本耳鼻咽喉科学会会報にH26、27年と連続して原著論文として掲載されました。

また、当科での突発性難聴患者様の入院数増加に伴い、高気圧酸素治療装置も2016年7月からさらに1台追加となり2台目が稼働を開始し、今まで以上に多くの患者様の治療にあたるようになりました。



高気圧酸素治療装置

当院での平成27年度 突発性難聴 入院数 **353**名（平均在院日数 7.1日）

## 医療機関のご関係者様へ

突発性難聴の患者様のご紹介/お問い合わせについては、下記までご連絡ください。

地域医療連携室 **045-871-5225**（月-土 9:00-17:00）

※必要に応じ、当院医師にお繋ぎさせていただきます